

## 町長と未来について語ろう会④会議録

### 開催日

---

開催日時 令和6年9月12日(木) 19:00 から 20:45  
場 所 文化センター 3階 ホール

### 次第

---

#### 1. 開会

#### 2. 町長あいさつ

今回4回目。毎回課長たちも来ているが、皆さんから出た質問の細かいところを補足するほか、皆さんがどういうご意見をお持ちか知ってこれからの町政に役立てるため、横に控えている。プレッシャーを感じずに、気軽に質問いただきたい。

#### 3. 町出席者紹介

#### 4. 意見交換

**町長** 始めに1年間の取り組みとして、役場の組織改革を大幅に行い役場機能を向上させた。企画係を独立させ未来創造課とし、子ども関連業務は教育委員会に集約、観光関連業務はまちづくり観光局へ窓口を一本化。働き方改革として職員の服装自由化、地域活性化企業人や地域おこし協力隊など外部の知見を得たり、女性管理職の登用など内部改革も行っている。観光では受入環境整備に注力し、スノーモンキーを見に来た観光客が他の情報に接触できるよう、湯田中駅の観光案内所などの整備を進めている。交通課題への取組は、国の補助金を活用し志賀高原のバスの実証実験を開始。農業ではブランド農業の振興やスマート農業機械の導入支援などを行い、高齢化が進む農家をサポート。教育ではALT(外国語指導助手)を2人から5人に増やし各小中学校に配置。姉妹都市を増やす過程で国際交流も推進したい。ゼロカーボン・環境対策は昨年「ゼロカーボンシティ宣言」をしてCO2削減に向けた施策を推進。山ノ内のブランディングとして新たに「ディスカバー山ノ内」のロゴを作成するなど観光の改革も進めている。

続いて課題として、人口減少・少子高齢化、産業の偏り、遊休農地拡大、後継者不足、インフラ老朽化、公共交通の維持などがある。学校統合にも課題、子育て施設や賃貸住宅が少ない一方、空き家は増加している。孫たちが帰ってくる魅力ある町にするために、良い循環を生みたい。町に賑わいがあり、住みたい人が増えて人口が増え、町も財源ができて新しい手を打ち、それがまた賑わいを生むという好循環が今は逆転している。賑わいがなく、財源もないから何もできず、人が減り賑わいがなくなる悪循環を止め、様々な仕掛けをする必要がある。「消滅可能性自治体」に山ノ内町も入っているが、これを変えるためには町民のQOL(クオリティオブライフ)を上げ、ここに住んでよかったと思ってもらいたい。女性が住みやすく、外国人と共生できる。観光で来る他にも様々な形で関係を持つ、山ノ内町のファンを増やすことで新しい人が入って新しい物事が起きる。町民サービス・教育を充実させ、子育て環境を充実させ、経済活性化した魅力ある町として認識される町を作る。経済活性化、教育の充実、町民サービス充実、どれか一つではなく色々なものが融合して魅力ある町と言われるようになって、移住者やUターンが増え、さらにそれらが強化される。基幹産業の観光と農業の後継者対策、遊休農地対策、廃ホテルや空き家対策、知名度アップのほか、観光と農業以外の産業の誘

致や起業しやすい環境づくりに取り組みたい。学校統合は、教育委員会には中身の議論をお願いしていて、公立でも私立並みの魅力ある教育を作りたい。子育て環境はシングルマザーで子育てしやすければ、基本的にはいろんな方が子育てしやすい。子どもも大人もわくわく楽しみながら生きていける町を目指す。町民サービスは公共交通の整備や、都市部に出ていなくても町内でも暮らしていける環境作りが重要。統廃合後に出る空き校舎は間髪入れず外国人向け日本語学校や6次産業の工場などに活用したい。スポーツでは、準備委員会を経て今年やまのうちスポーツクラブが立ち上がった。教室以外にも部活動の地域移行の受け皿であり、かつ町民の健康増進の支援もできる、誰もがスポーツに親しめる環境づくりをサポートしたい。環境問題の取組ではロードマップを作り、CO2 過多の状況を解消するためにコンポスト普及によるゴミ削減、森林の利活用再生、地産地消エネルギーなど検討したい。最後に、役場も変わらなければいけない。課長たちにも今まで通りの仕事の仕方を変えて、効率よく少人数で充実したサービスができるような町づくりとお願いしている。

**参加者** 子ども海外留学支援制度について。高校までの約780人のうち3人だけが1,500万円をもらい、残りの700何十人に何もないのは不公平。その他大勢には町に残り納税者になる子もいる。修学旅行費や副教材を無料にする方針の自治体もある中、公のお金を使うことに関してきちんと考えていただきたい。応援してあげたい気持ちはみんなにあるが、今この町の状況でやるべきことなのか。

**町長** 多様な子どもたちの中で、海外に出たいが円安が進み、出たくても出られない子が出てくる。不公平と言われれば不公平だが、面接して本当にやる気のある子、エネルギーを持った子を支援したい。確かに給食費も無料化できてない状態で、優先順位つけるべきところはあるので、整理して考えたい。

**参加者** 空き家対策と人口減少について。前坂は空き家もずいぶん減って、移住者もいると聞いている。空き家にもどんどんよそからも入ってきてもらいたい。

**町長** 前坂地区は人数、家の数も少なくなったと聞いている。山ノ内町の住みやすさ等含め検討中の方は増えているので、引き続き移住促進や、移住者が地域に馴染めるようなサポートはやっていきたい。

**参加者** 人がいないと飲食店の経営も難しい。地獄谷野猿公苑に来る25万人の観光客が何も知らずに帰る状況に対し、若い力やアイデア、その実現速度が必要。役場にマーケティング部のような体制はあるのか。

**町長** 役場の仕組みではすぐ動けないため、観光部分を移管した観光局でネットワーク良く動ける体制づくりを進めている。まず受入環境整備として美術館近くに待合室とトイレを整備し、デジタルサイネージで情報発信する。来ている人を捕まえるため湯田中駅、道の駅、野猿公苑入口の3拠点は押さえない。

**参加者** 先日の議会では、町長に町内のイベントにもっと顔を出してほしい、方向性を考え直してほしいという話があったようだが、町に様々な変化が起きているのは町長の努力が大きな要因だ。今回、

議会が町長のアメリカ出張旅費を通さなかったのはおかしい。町長にはもっと頑張ってもらいたい。

**町長** 議会はチェック機能としての役目があり、意見の相違もある。今回は説明不足もあったと反省し、今後は議員にも事前に理解を得たい。町民のほうを向いていなさすぎるといふ指摘は、公務が重なればどちらか選ばざるを得ない。政治家というより町を変えるプロデューサーなので、この4年間で町を良い循環に回らせることに集中し、議会の意見とバランスを取りつつやっていきたい。

**参加者** 経済活性化の課題設定について。知名度向上、受入体制整備、空き家対策など適切に課題設定がされているか。適切に課題設定されている場合、その中でも重要な本質的な課題と優先順位は。またその優先順位は、定量面と定性面で議論されているか。

**町長** 課題設定としては労力が必要で困難な新規客の獲得よりも、観光客の入り口の湯田中駅や道の駅で、来た人に他のコンテンツを知ってもらいリピーターになってもらう。まず受入体制整備に数年間力を入れる方針でいるが、補助金獲得状況などで事業の順番が決まる現実もある。どこにKPIを置くかは、まずは僕の方で判断、予算も取捨選択して受入体制に回すなど、限りある予算を動かしつつやっている現状。

**参加者** KPIはこれから設定するのか、またそのKPI設定が間違っている場合は効果計測できないがどうやっていくか。Web活用も盛んになると思うが、マーケティングとしてはデジタルサイネージを置くのもオフラインかオンラインか、どういう基準でやっていくのか。

**町長** 単にプロダクトを売る話ではないため、コンサルを入れ部分的にKPI設定しながら効果測定をバランスよくやりたい。情報はネット上に出ているが実際観光地ではオフラインで、そこで目に見えるものの情報に頼りがち。デジタルサイネージで一方向的にはなるが猿や観光地の視覚的な状況発信、SORAテラスの雲海出現状況のリアルタイム情報を各拠点で得られるのが最低限のサービスだと思っている。

**参加者** 子ども海外留学制度は一言で言うと衝撃。それ以前に小学校のモップが汚れていて買い替えてほしいという話を聞いたが、そういうところに手が回っていないのに、スタートから最大3人で1人500万という金額設定は正しかったのか。最初は1人からとか、もっと少額で始める方法もあったのではないか。

**町長** 今のモップの話は後ほど教育委員会に確認する。留学補助は一方をおざなりにしようという話ではなく、子育てのお金の不安要素はなるべく解消し、シングルマザーでも育てやすいような環境として、学校以外の時間は町がちゃんと支援体制を作りたい。町の経営的な考えだけでなく皆さんの意見も必要、こういうのがあった方がいい、足りない部分などがあれば、どんどん町長室に来てほしい。

**参加者** 夫婦で今年移住。環境問題への具体的な取組は。住民も町長と同じ考えで取り組まないといけ

ないが、支援や援助があれば協力したい。若い人にはいろいろ支援もあるが、高齢者に対する支援・援助もしてもらいたい。例えば薪ストーブの設置に対して他市町村では支援しているところがある。若い方はまだこれから先あるが、我々は先短いので、その辺を支援してもらえればもっと住みやすくなると思う。

**町長** ゼロカーボン、CO2 排出量削減にはロードマップ作成に着手した。例えばコンポストの補助金を強化して家庭にコンポストを普及させ、生ゴミ焼却量を削減し CO2 削減する。森林の活用も目標設定と階段の設定をしていて、具体的なものが見えるのはもう少し先になる。高齢者への支援は検討していきたい。

**参加者** 廃ホテル対策について。観光地として謳っているにはあり得ないほどボロボロの建物を目にする。ブランディングの取り組み、リピーター獲得、孫が帰ってきたくなるまち作りも掲げているが、見るからに廃れゆく町に帰ってきたいと思うかは疑問。具体的にどのように考えているか。

**町長** 廃ホテルや空き家の問題は、所有者との関係があり町が自由に手を出せないが、投資家にまちづくりビジョンを示して興味を持ってもらい動いてもらうなどして、様々な人が入ってきて何かを起こすことでまた人が入ってくる好循環となる経済活性化のきっかけを町が仕掛けたい。空き家は行政代執行が可能だが、ホテルは多額の費用が必要。極力投資家や民間事業者に協力してもらう方法を模索している。

**参加者** 子どもの自己有用感を高めるために、町と学校、家庭、地域が連携し、一人ひとりの子どもを温かく見守りつつも、個々が自立できる教育も必要。不登校の子も、地域で活動の場を設け、みんなで達成感を持てれば少しずつ自己有用感を高められるのでは。スポーツに限らず文化様々やり方を模索してほしい。

**町長** 不登校の子たちの第三の居場所づくりも動き出していて、これからは画一的に育てるより、個々に合う環境を提供したい。高校も専門性をもって学べる、やりたいことが見つけられる環境、感情の部分育てる教育も重要。テストの点で測れない部分を教育現場に取り入れ小さい町ならではの環境作りをしたい。

**教育長** 日本の教育は従来、子どもが学校に合わせていたが、今は子どもに学校や学びの環境を合わせる時代。山ノ内町の学校は少人数ゆえに、一人ひとりの子どもに対応できる素地がある。100 人いたら 100 通りの学び方の理想に向かって努力することで子どもたちは自分が大事にされていると感じ、自己肯定感も上がる。子どもの自分で選び判断する力を信じ、対話を通じた教育を目指したい。

**参加者** 統合委員会などを傍聴しているが、実現に向けて話が進んでいない印象を受ける。町長が納得する形でなければ進められないのは理解できるが、議論は進んでいるのか。新聞などを読むと対立しているように見える。コミュニケーションや対話を大事にしてもらいたい。教育長はじめ一生懸

命やっただいていてはすごく感じているので、前に進んでいけば全く文句はない。その辺りの課題感はどうか。

**町長** 学校統合は100年に一度の大事業で、軽率に統合するべきではない、統合するならちゃんとすべきという認識。中身と場所は連動するが、中身を議論せず単純に東西南北が納得するからとの理由で場所を決め、多額の費用をかけろと言われてもできない。小中学校のビジョンが示されれば、それに向け財政面は頑張りたい。今年度中には方向性を示し、みんなが納得した形で統合を進められると感じている。

**参加者** 各学校の人数に偏りがある。一刻も早く統合して、少人数でクラス編成、複数担任制を導入してほしい。ハード面でも各学校の維持は高コスト。東小はクラスを半分に分け少人数教育をしているが、一方のクラスは空調のない学習室で勉強している。話し合いと並行してできるところから進めてほしい。

**町長** 時間をかけるべきではないが、議論を中途半端にしたまま多額の費用はかけられない。校舎はそのままいったん東小に統合し、その間に西小を整備して引っ越すという案なども出してきたが、東小は後ろの崖がレッドゾーン（土砂災害警戒区域）に入っており、直ちに危険ではないものの安全性の面で懸念が残る。また閉校にも時間が必要なので、一生懸命議論して早く統合しましょうとお願いしている。

**参加者** 湯田中駅変わったね、ずっと良くなったと言うお客さんがいた。みんなを変える、良くすることは難しいが、湯田中区では空き家対策に向けて動き出し、各地域で議員や役場職員も一生懸命頑張っている。皆がそういう気持ちであれば良い方向に行くと思う。町は区長や議員、各団体との繋がりを太くし、困っている住民の声を聞いて、温かい町にしてほしい。

**参加者** インバウンドという言葉が手放せない中、どうしても志賀高原は冬のことばかり言われてしまうが、冬以外も、町長にはもっとトップセールスをやってほしい。また、町長は国とパイプを作りセールスをして、この町に観光客を呼んでもらいたい。

**町長** 議会の皆さんを説得しながらトップセールスに出つつ、町の中のことも頑張りたい。僕はプロデューサーとして、県とのパイプを活かせる副町長や、課長たちプロフェッショナルを手元に置いて各分野で頑張ってもらうように統括するのが仕事。任期はあと2年半だが、全力でこの町が良い方向に変わっていく種を植えたい。町長室のドアは基本開いており、フラッと役場に来た際には秘書に声をかけてもらえれば、基本的には僕が空いていればどうぞという形で話せる。リアルな生の声を拾って、皆さんの声を聞いて課長さんたちに伝え、町運営をするのが目標。ぜひ皆さんには顔を出していただきたい。

20:45 終了